

## 生物科学学会連合 第18回連絡会議 議事録

**日時**：2007年5月2日（水）15:00～17:20  
**場所**：東京大学 山上会館 201・202 会議室

**出席**：浅島 誠（生科連 2007-2008 年度代表・日本動物学会）  
大森 正之（生科連前代表・日本植物生理学会）  
石和 貞男（日本遺伝学会） 山下 雅道（日本宇宙生物科学学会）  
内山 安男（日本解剖学会） 水島 昇（日本細胞生物学会）  
小関 良宏（日本植物学会） 西村 幹夫（日本植物生理学会）  
郷 通子（日本進化学会） 三中 信宏（日本進化学会）  
小野 みどり（日本神経化学会・代理） 大隅 典子（日本神経科学学会）  
宮島 篤（日本生化学会） 田幡 憲一（日本生物教育学会）  
美宅 成樹（日本生物物理学会） 小西 真人（日本生理学会）  
武田 洋幸（日本発生生物学会）  
真行寺 千佳子（日本比較生理生化学会・代理）  
朴 民根（日本比較内分泌学会） 片山 葉子（日本微生物生態学会）  
福田 博（日本分子生物学会） 三宅 健介（日本免疫学会）  
（計 20 学会 22 名）

オブザーバー：中野 明彦（日本学術会議生物科学分科会委員長）

事務局：中西 秀彦 山口 恵子

**欠席**：日本生態学会 日本薬理学会  
（計 2 学会）  
（敬称略、学会名五十音順）

**議長**：浅島 誠

・本連絡会議は本年度第一回目の定例連絡会議に相当するため、「運営に関する申し合わせ事項」第3条により本連絡会議は成立した。なお、2/3以上の会員の出席が確認されたため、同申し合わせ事項の付則2により、本連絡会議における満場一致の議決事項については生科連の決定事項として採用される。

・各学会連絡委員により自己紹介がなされた。

**議題**：

### 1) 第17回連絡会議議事録の確認

前回議事録案が確認され、承認された。

### 2) 2006年度決算報告

事務局より2006年度収支決算報告がなされ、承認された。

### 3) 学会連合の業務委託先について

大森前代表より、事務局業務の前委託業者であった株式会社メディ・イシュの業務撤退とその後の経過について説明がなされた。2007年1月より中西印刷株式会社との業務委託契約を結んだ旨報告があり、本連絡会議にて正式に承認された。これに伴い「運営に関する申し合わせ事項」の記載に一部改正が行われる。

#### 4) 副代表について

「運営に関する申し合わせ事項」第6条に基づき副代表を推薦するに際し、浅島代表より、後日メールにて被推薦者をお知らせし、メール稟議にてお諮りしたいとの申し出があり、了承された。

#### 5) 生物科学学会連合の今後の活動について

続く①～③の議題に先立ち、浅島代表ならびに中野日本学術会議生物科学分科会委員長より日本学術会議の現況について説明がなされた。

生科連は生物科学系の学会が集まる大きな連合体という、この分野ではこれまでなかった団体になっており、一方学術会議には政策への反映につなげるべく研究団体からの提言等を吸い上げるための機能が調っている。この点をふまえ、生科連と学術会議との協力体制を築いていきたいとの提案が浅島代表よりなされた。

##### ①学術会議協力団体への申請

生科連として学術会議協力団体（連合体）申請を行うことが承認された。また、生科連の会員で現在協力団体となっていない学会には、この機会に協力団体となる手続きをしていただくこととなった。

##### ②国際生物学オリンピック

石和連絡委員より、2009年7月開催の「国際生物学オリンピック 2009 (IBO2009)」を日本に招致することが決定した旨、報告された。また同委員より、国際生物学オリンピック日本委員会 (JBO) 毛利秀雄委員長から生科連ならびに諸学会への挨拶と協力依頼のメッセージが伝えられた。

生科連として IBO2009 に協力することが承認され、具体的に個々の学会がどのような形で協力できるかについては、後日アンケート調査を行うこととなった。

##### ③ダーウィン生誕 200 周年記念企画

2009 年はチャールズ・ダーウィンの生誕 200 年という記念すべき年である。また IBO2009 が日本で開催されることになっており、日本進化学会でも設立 10 周年の節目を迎え国際会議の開催が予定されている。そこで生科連でも、主催シンポジウムを開催する提案が浅島代表よりなされ、承認された。

##### ④生科連主催のシンポジウム企画

生科連の存在やその活動をより周知させる必要性が説かれ、③の企画とは別に、かねてから懸案となっていたシンポジウム開催について検討がなされた。

##### 審議検討された主な内容（継続審議事項）：

- ・生科連と学術会議との共催を目指す。
- ・開催予定日は2007年10月19日（または26日）とする。
- ・テーマ候補として「①若手のキャリアパス問題」「②科研費問題」「③学会誌の問題」「④理科教育問題（教師のあり方）」が挙げられ、出席連絡委員の挙手による投票では①が一位、④が二位となった。問題提起に終始せず前向きに解決の礎石となるシンポジウムを目指すため、今回はテーマを①に絞り、さらにシンポジウム開催後の動きも見据え、慎重に検討していくこととなった。

- ・シンポジウムの演者としては「①総合科学技術会議の議員」「②文科省の局長クラス」「③大学の現場から問題提起できる教育者」「④メディア関係者」「⑤学術会議の関係者」等が検討された。

## 6) その他

- ①山下連絡委員より、宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙環境利用科学研究班ワーキンググループの公募について紹介がなされ、ピアレビュー候補の推薦が各学会に依頼された。本件については後日、山下連絡委員からの詳細連絡を生科連事務局よりメール配信することとなった。
- ②生科連ホームページを立ち上げること、ならびに作成・運営を中西印刷に依頼することが承認された。
- ③次回連絡会議は2007年10月19日（または26日）、シンポジウム開催日の午前中に日本学術会議の会議室にて開催する予定である。

以上